

2. 中学校社会科における指導事例

公民的分野「民主政治と政治参加」

1. 単元の目標

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること、地方自治の基本的な考え方について理解する。
- ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

3. 単元における「主権者教育の充実」に向けた指導のポイント

(1) 知識の理解と課題解決型学習を有機的に結び付ける学習過程を仕組むこと

本単元では、国政や地方自治に関する学習と並行して、身近な地域の諸課題の解決策を提案するという課題解決型学習を行い、両者の学習が有機的に結び付くことで、より実感を持って社会の在り方を理解できる学習展開を仕組んだ。具体的な施策の内容や制度を官公庁が設計することを理解させるだけでなく、並行して、地域の課題解決の提案を自ら考え、税金を使う行政の仕事としてふさわしいか、民間の事業を圧迫しないかなどの点から練り直すことができるよう工夫した。

※図は本事例の単元構造であり、数字は1単位時間の授業を、色付き部分は課題解決学習を意味している。⑦～⑮の時間については1単位時間の授業のうち後半の15～20分程度を課題解決学習に用いる。課題解決学習の内容については、「5. 授業の実際」において詳述している。

導入	①
一次	②③④
	⑤⑥
二次	⑦～⑮
	⑯⑰
	⑱
三次	⑲⑳
	㉑㉒
まとめ	㉓㉔

(2) 課題解決の提案について行政職員から助言・評価を受けること

単元全体を通じて、地域の課題解決を提案する学習を展開し、その提案内容について市区町村の行政職員から助言・評価を受ける。このことにより、自分の生活経験を基にした直感的なアイデアにとどまらず政策として不十分な視点や考え方に気付かせる。また、より妥当性、実現可能性のある提案について考えさせる。また、第二次では、現実社会の諸課題を題材にしながら国政の学習を展開する。現実社会の諸課題に対する政治的な解決への迫り方を、身近な地域の諸課題の解決の学習に生かす。

(3) 模擬選挙を実施すること

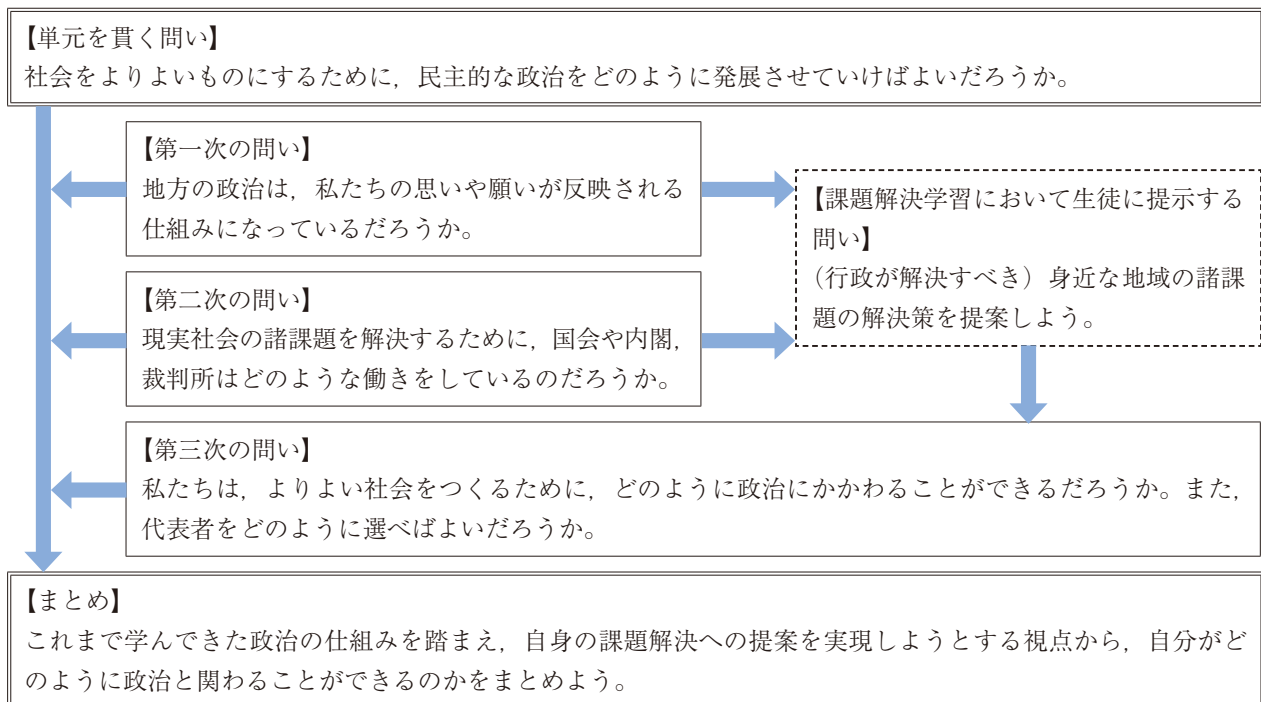
課題解決学習を通じてまとめた提案をもとに、選挙管理委員会の協力の下、模擬的に首長選挙を行うことにより、社会の形成に参画する基礎を培うようにしている。

4. 指導計画 (全 24 時間)

(1) 単元の指導計画

単元の導入「政治と民主主義」	(1 時間)
第一次「政治の役割と暮らしの中の政治 (地方自治)」	(5 時間)
第二次「社会問題の解決に向かう国の政治 (国政)」	(11 時間)
第三次「私たちの政治参加」	(5 時間)
単元のまとめ「民主的な政治の発展に向けて」	(2 時間)

(2) 単元における問いの構造



(3) 指導の展開例

次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
導入	<p>【ねらい】 単元を貫く問い「社会をよりよいものにするために、民主的な政治をどのように発展させていけばよいだろうか」について、現時点でのこの問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に向けてどのような学習が必要か計画を立てたりするなど、課題解決への見通しをもたせる。</p>	<p>・これまで多数決で物事を決めてきたことを振り返らせ、その中で感じた矛盾や問題点など、学習前の、多数決に関する感想として表現させる。 ☆対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、学習課題を見だし、この問いに対する答えを予想し、解決への学習の見通しを立てている。【態】</p>
	<p>① 民主的な政治を実現するには、どのようなことが必要か。また、それは歴史的にどのように実現されてきただろうか。</p> <p>・普通選挙が実現されなければならない。 ・市民革命や議会政治を通じて実現されてきた。</p> <p>民主的な政治で必要不可欠な多数決の原理には、どのような問題点があるだろうか。また、それを解決する方法はあるのだろうか。</p> <p>・少数派の意見が尊重されるべきであるが、その意見を取り入れるには多数決では難しいと思う。</p> <p>【単元を貫く問い】 社会をよりよいものにするために、民主的な政治をどのように発展させていけばよいだろうか。 (単元シート)</p>	
第一次	<p>【第一次のねらい】 地方自治の仕組みや住民の権利と責任について理解させるだけでなく、身近な地域にある課題を見だし、それをどのように解決していくべきか考察させる。</p>	
	<p>【第一次の問い】 地方の政治は、私たちの思いや願いが反映される仕組みになっているだろうか。</p>	
	<p>② 私たちがより暮らしやすくなるために、私たちの住む地域にはどのような課題があるだろうか。</p> <p>・電車やバスの本数が少なく、利用しにくい。 ・小規模な学校が多くて、やりたい部活動ができない。 ・ゴミの分別が分かりにくくて、ルールを守らない人が多い。</p>	<p>・生徒の生活経験の中で感じている身近な事柄やニュース等で取り上げられている事柄に注目させるとともに、出された課題は、今後市区町村の職員から助言を受けながら、解決に向けた提案を練り上げていくことを予告する。</p>
	<p>③ 私たちの市区町村はどのような行政サービスを行っているだろうか。</p> <p>・上下水道の管理をしている。 ・バスの運行をしている。 ・高齢者介護の様々なサービスを行っている。</p>	<p>・小学校での学習を生かす。また、自治体のホームページを参照して、自治体の組織から具体的な業務を予想させたり、独自の条例などに気付かせたりする。</p>
<p>④ 私たちが住む市区町村の強みと弱みは何だろうか。歳入と歳出のグラフ、他の市区町村との比較から読み取ろう。</p> <p>・歳入に占める地方交付税の割合が大きい。 ・地方債の割合が大きいということは、自治体の運営は苦しいのかもしれない。</p>	<p>・財政状況が健全な自治体、全国平均のそれぞれの歳入と歳出を示す。当該自治体の特徴が比較しやすいように選定する。 ・当該自治体の歳入と歳出については、自治体のホームページから調べさせる。民生費や衛生費などの行政用語について説明する。</p>	

次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・民生費の割合が大きいということは、高齢者福祉に必要なお金が多いのかもしれない。高齢化が進んでいることと関係していそうだ。 	
	<p>⑤⑥（略）</p> <p>【第一次の問いに対する予想される生徒の答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当たり前前に利用したり受け取ったりしているサービスが行政の仕事であることが分かった。市区町村の職員の方が、市をよりよくしようと考えて行っているが、私たちの思いを反映させられているかをさらに知りたい。まずは、私たち自身がどうしたいという課題意識をもつことが大切だと思った。 	
第二次	<p>【第二次のねらい】</p> <p>具体的な現実社会の諸課題に対する国政の動きを参考にしながら、国会や内閣、裁判所の仕組みを理解させるとともに、身近な地域の諸課題の解決への提案がより実現可能になるような視点をもたせる。</p>	
	<p>【第二次の問い】</p> <p>現実社会の諸課題を解決するために、国会や内閣、裁判所はどのような働きをしているのだろうか。</p>	
	<p>第二次では、課題解決の最終提案の発表まで、毎授業の後半15～20分程度を、提案を練り直す時間として設定する。</p> <p>※第二次のこの学習の詳細は「5. 授業の実際」参照。</p>	
	<p>⑦</p> <p>感染拡大によって打撃を受けた観光業や飲食業を支援する政策は、どのように進めたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国が税金を使って行っている。 ・市町村がそれぞれの自治体の実態に応じて行っている。 ・旅行業者や飲食店が国に要望して実施された。 ・国会や内閣で話し合っって決めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習内容を踏まえて、国会や内閣の働きを振り返らせる。
	<p>⑧ 国会はどのような仕組みになっているのか。</p> <p>⑨ また、政策の実施に向け、国会はどのような役割を果たしているのだろうか。</p> <p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の予算が必要なので、国会で議決が行われている。 ・議決は、国会議員による多数決によって行われ、そのために政党が大きな役割を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政策を実施するためには、（補正）予算が必要であること、そのために国会での議決が必要であること、そのために多数の議員による賛成が必要であることなどをおさえて、国会の仕組みを理解させる。 ・法律の制定、内閣総理大臣の指名などの国会の役割についても扱うようにする。 ・議員立法と内閣提出法案に触れ、立法府としての議員の役割を理解させる。
<p>⑪ 内閣はどのような仕組みになっているか。</p> <p>⑫ また、政策の実施に向け、内閣はどのような役割を果たしているのだろうか。</p> <p>⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの法律案や予算案は、国の省庁で作られていて、それが国会で審議・議決される。 ・国の省庁の仕事は、多くの場合、与党の国会議員である国務大臣が監督したり、野党の国会議員が国会での審議を通じて調査したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政策を実施するためには、その内容や制度を作らなければならないこと、そのために官庁の公務員が業務をすること、（補正）予算を成立させるために国会へ説明しなければならないことなどをおさえて、内閣の仕組み及び国会と内閣の関係を理解させる。 	
<p>⑭ 裁判所はどのような仕組みになっていて、どのような役割を果たしているだろうか。</p> <p>⑮ 政府による政策が権利を侵害してしまう場合、裁判所はどのような働きをするだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国政選挙において、1票の格差に不平等がある場合、国民が行政裁判に訴える場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動の自由や公共の利益の考え方を踏まえて、不公平感や権利の衝突が生じないか考察させ、その場合の裁判所の仕組みや手続きを確認することで司法の役割を理解させる。 ・課題を解決するための施策について、それが誰かの基本的人権を侵害していないかという視点や、利害関係を調整しなければならないという視点をもたせる。 	

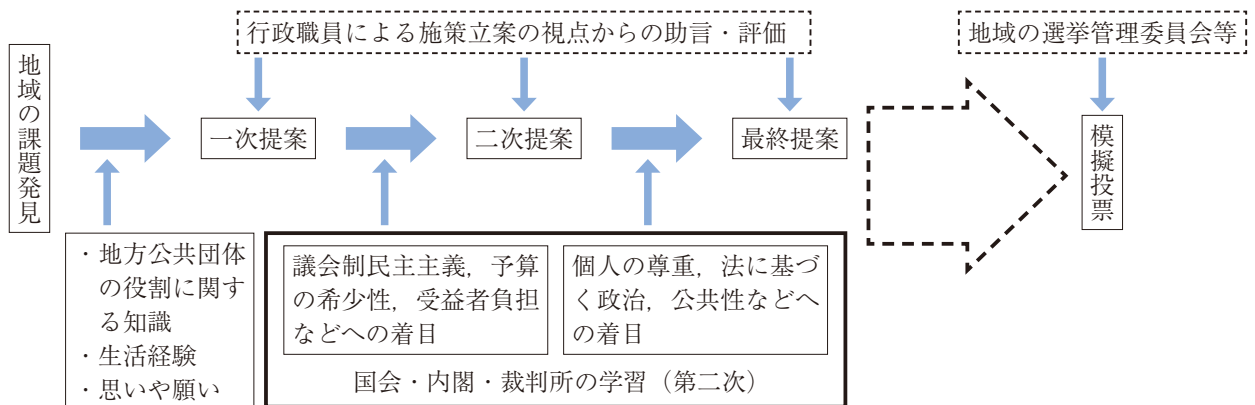
次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
第二次	⑩⑪ (略)	
	<p>【第二次の問いに対する予想される生徒の答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算案や法律案, それに基づく多くの施策は, 行政府の公務員がつくりあげていることが分かった。そして, 最終的には国民の選んだ(代表者である)国会議員が可否を判断するというのが, 民主主義と言えらると思う。 ・現実社会の諸課題を解決するために, 国会議員も公務員も責任が大きい, そもそもどのような課題があるかについて, 国民が声を上げていかなければならないと思った。 	
第三次	<p>【第三次のねらい】</p> <p>身近な地域の課題を解決するための提案を実現するために, 私たちが政治参加する仕組みを理解させるとともに, 政治参加の際にどのような態度や考え方が必要か考察させる。</p>	
	<p>【第三次の問い】</p> <p>私たちは, よりよい社会をつくるために, どのように政治に関わることができるだろうか。また, 代表者をどのように選べばよいだろうか。</p>	
	<p>⑱ 私たちの思いや願いは, どのように政治へ反映させることができるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の選挙や地方選挙で一票を投じる。 ・市議会等が行う意見交換会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは授業を通して, 実際に市へ施策を提案することができたが, 日常生活ではどのようにして思いや願いを政治へ反映させるか考察させる。
	⑲⑳ (略)	
	<p>㉑ 私たちがよりよい選択・判断をするためには, どのように情報と関わるべきだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの情報源だけでなく, 複数調べることが大切だ。 ・事実の報道なのか, 主張なのかを見極められるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の新聞を比較したり, ネットやSNSの影響力を調べたりするなど, メディアリテラシーの視点を取り入れる。 ・新聞の活用にあたっては, NIEの実践を参考にする。
<p>㉒ 身近な地域において政治的に参加するにはどのような方法があるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治は, 私たちとの距離感が近いので, 自分の考え方と近い地方議員がいないか知っておくことが大切だ。 ・今回, 授業で考えたような提案を地方議員などに伝えることも, 実現に向けた一つの方法だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接請求の仕組みや地方議員の職務について, 本単元で生徒が提案した施策の実現と関連付けて理解させる。 <p>☆対立と合意, 効率と公正, 個人の尊重と法の支配, 民主主義などに着目して, 政治参加の在り方を多面的・多角的に考察している。</p> <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>	
<p>【第三次の問いに対する予想される生徒の答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治参加には, 選挙で投票するだけでなく, 署名や陳情などの直接的な方法もあることを知った。 ・代表者を選ぶときには, その人が掲げている公約や考え方を理解したい。自分の意見や考えをもち, 投票する権利を棄権しないようにしたい。 		
まとめ	<p>【単元を貫く問い】</p> <p>これまで学んできた政治の仕組みを踏まえ, 自身の課題解決への提案を実現しようとする視点から, 自分がどのように政治と関わることができるのかをまとめよう。</p>	
	<p>㉓ 民主的な政治が発展していくためには, どのようなことが必要か, これまで学習してきたことを基に話し合おう。また, 単元の最初に考えた答えと比較しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆対立と合意, 効率と公正, 個人の尊重と法の支配, 民主主義などに着目して, 主権者として民主的な政治の発展に必要なことを多面的・多角的に考察し, 表現している。【思・判・表】

次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
	<p>・自分のことだけを考えて政治に何かを要求してもうまくいかないと思った。</p> <p>・社会全体のことを考える必要があるけれど、その中で誰かの権利が侵害されていないかを考えることの方が大切なのではないか。</p> <p>・民主政治には少数派の意見を尊重することが大切だと思っていたが、少数派といっても様々な立場があり、政治的な決定をするときは、その都度、できるだけ多くの立場の人のことを想像する必要があると考えた。</p> <p>②4 これまで学習してきたことを踏まえて、自分はどのように政治と関わっていくかまとめよう。</p> <p>【単元を貫く問いに対する予想される生徒の答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今はまだ選挙権はないけれど、18歳になったら必ず投票したい。そのときには、候補者の公約を踏まえて、自分だけでなく様々な立場の人のことも考えて判断したい。また、投票権はなくても、社会で起きていることに興味をもって、何か解決すべき課題がないかという視点で見たい。 ・自分の住んでいる地域がよりよくなるためにはどうすればよいか考え続けたり、そのために政治で解決できるようなことがないか考えたりしていきたい。自分だけで社会を変えることは難しくても、世の中をよりよくなるには、自分も政治に参加していくことが大切だと思った。 	<p>☆単元の導入に立てた問いの答えとまとめの答えを比較して自らの学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。【態】</p> <p>☆我が国の政治や政治参加について関心を持ち、問いを見だし、その社会的意義を記述している。【態】</p> <p>・自分の生活や、家族、地域、国家との関わりについて目を向けられるようにする。</p>

5. 授業の実際

(1) 単元の指導計画（課題解決型学習及び地域との関係機関との連携場面）

第一次	「地域の課題解決へ向けた提案（一次提案）」	第5・6時
第二次前半	「地域の課題解決へ向けた提案（二次提案）」	第8～15時
第二次後半	「地域の課題解決へ向けた提案（最終提案）」	第16・17時
第三次	「思いや願いを実現させるための投票（模擬投票をしよう）」	第19・20時



(2) 指導の展開例

次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
第一次	<p>⑤ グループで解決を目指す身近な地域の課題を選択しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の課題に向けた提案をしよう。 ・小中学校の統廃合について提案しよう。 ・ゴミの分別や出し方について提案しよう。 <p>私たちの住む市町村の課題を、地方行政はどのような方法で解決できるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車やバスの利用人数を把握して、利用者が多い時間帯の本数や路線を増やす。 ・中学校の人数が〇〇人以下になったら、近隣の学校に統合する。 ・ゴミを出す時間帯を制限し管理する人をつけて、違反者には次回以降のペナルティを課す。 <p>⑥ 課題解決への提案をしよう。また、課題解決への提案が、より現実的で説得力あるものにするためには、どのようなことが必要だろうか。(一次提案書)</p> <p><行政職員からの期待される助言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数を1本増やすと、人件費や燃料費などでおよそ年間〇〇円かかります。 ・過去に中学校の統合をしたときには、様々な人に説明するのに〇年かかりました。 ・ゴミの分別について現在〇〇の取組を行っていて、〇〇の効果を上げています。 <p>グループの提案に対してももらったアドバイスを、どのように自分たちの提案へ生かすことができるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの提案には思ったよりお金(税金)がかかるので、もっと予算を抑える提案にしていきたい。 ・学校の統廃合には、子供や保護者だけでなく、多くの人が関わっていることが分かったので、それらの人たちを納得してもらえそうな提案にした。 ・ゴミの分別について現在の取組を知ることができたので、よりよいものになるように工夫していきたい。 <p>【この時点での予想される生徒の提案と気づき】 自分や家族がいつも使う路線バスが混んでいて使いにくかったので、それを解決するために、利用状況を調べた上で、利用者の多い時間帯の本数を増やしたり、近くのルートの路線を増やしたりする提案を行ったが、バスを増やすのは意外とお金がかかることが分かった。バスは利用者が増えれば、本数を増やせると思っていたが、税金を出して運営していることが分かった。今後、この部分を説得できるような提案に練り上げたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次の導入において、学級内で見いだされた身近な地域の課題から、グループで話し合っ課題を選定させる。 ・「私」や「私たち」を課題に取り組む主体にするのではなく、あくまで行政の仕事としてどのような解決方法があるかを考察させ、グループで提案させる。 ・生徒の生活経験や願いなどを基にした直感的、一面的な提案になることを想定する。 <p>☆対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、身近な地域の課題を解決する方策を多面的・多角的に考察し、表現している。【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表には、地元の市区町村の行政職員から参加してもらい、解決するに当たって配慮しなければならない点を指摘してもらうように準備する。 ・行政職員からは、予算の希少性、過去に取り組んだ施策、現在取り組んでいる内容などについて助言をしてもらうよう、事前に打ち合わせしておく。

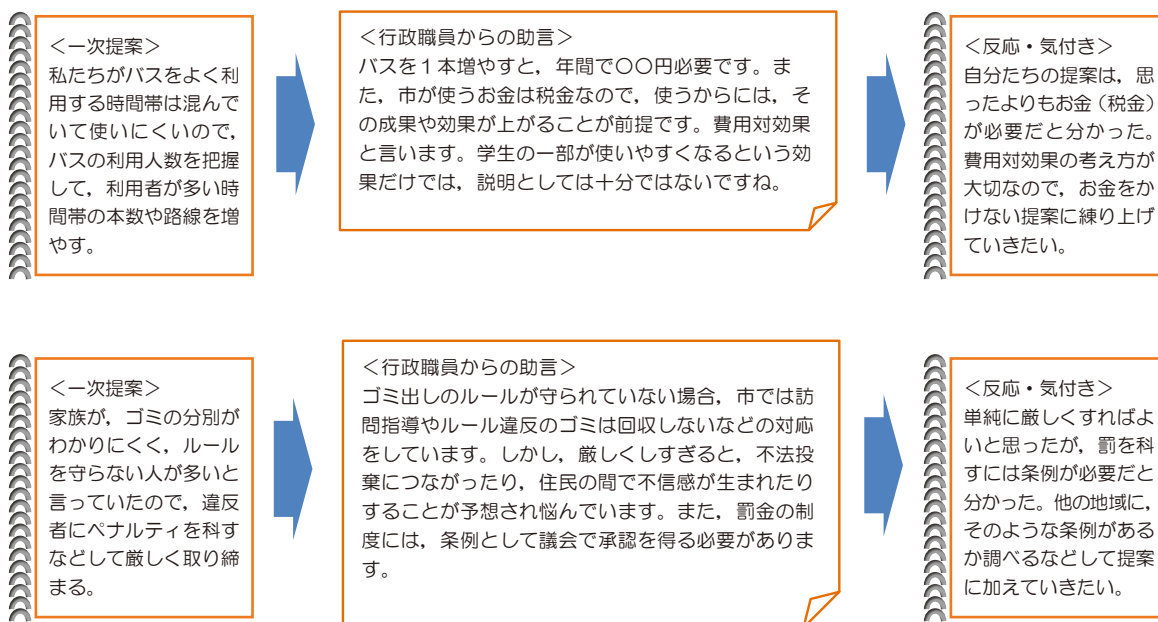
次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
第二次で取り組む毎時間の後半15～20分の課題解決型学習について		
第二次	<p>⑧ 国会の学習を踏まえ、グループで作成している提案は、〇〇市の議会で過半数の賛成を得られる内容になっているだろうか。</p> <p>⑨</p> <p>⑩</p> <p>・自分たちの提案は、一部の人の利益に特化していたので、多くの人の賛成を得られないかもしれない。</p> <p>・議会で賛成を得られるように、予算を少なく済ませたり、効果が上がることを示したりして、説明できる資料を準備したい。</p>	<p>・施策を実行するための（補正）予算案を成立させたり、法律を制定したりする上で、多数の議員による賛成が必要であることなどを理解させる。</p> <p>☆対立と合意、効率と公正、民主主義などに着目して、国会の果たしている役割を踏まえ、提案している具体的な施策について多面的・多角的に考察している。【思・判・表】</p>
	<p>⑪ 内閣の学習を踏まえて、グループで作成している提案は、〇〇市の行政の施策としてふさわしい内容になっているだろうか。</p> <p>⑫</p> <p>⑬</p> <p>・提案に使われるお金は税金なので、一部の人が利益を受けないのは公正ではない。使用料をとったり、全体へ利益が行き渡ったりする工夫をしたい。</p> <p>身近な地域の課題を解決する方策について2回目の提案をしよう。また、課題解決への提案が、より現実的で説得力あるものにするためには、どのようなことが必要だろうか。（二次提案書）</p> <p>※二次提案は、グループごとに個別のやりとりをするため、時間には位置付けない。</p>	<p>・施策の実現のための原資が税金であることから、対立と合意、効率と公正に注目して施策がつけられ、全体の予算のバランスが考えられていることなどを理解させる。</p> <p>☆対立と合意、効率と公正に着目して、内閣の果たしている役割について具体的な施策を題材にして多面的・多角的に考察している。【思・判・表】</p> <p>・行政職員へは、あらかじめ提案内容の概略を知らせ、どのようなポイントで助言をもらうか打ち合わせをしておく。</p> <p>・可能であれば、生徒と行政職員とのオンラインのミーティングの場を設ける。アポイントの取り方やオンラインのミーティングの注意事項なども指導する。</p> <p>・「一次提案書」に、「⑤一次提案との違い・修正点」の観点を加えて活用する。</p>
<p>【この時点での予想される生徒の提案と気づき】</p> <p>・施策として実行するには、多くの議員に賛成してもらう必要があると改めて理解した。議員は、様々な立場の人の代表者であるため、私たちの提案も、自分たちが使いやすいというだけでなく、できるだけ多くの立場の人たちにとってよりよいものになるように練り直した。利用者が少ない時間帯のバスは減らそうと考えていたが、その時間帯は高齢者の利用者が多く、交通手段を奪ってしまうことになるので、バスのサイズを小さくしてワゴン車などを取り入れる提案とした。</p>		
第二次	<p>⑭ 裁判所の学習を踏まえて、グループで作成している提案は、誰かの基本的人権を侵す内容になっていないだろうか。</p> <p>⑮</p> <p>・自分たちの提案は、通学する学生のことを想定して立てた施策なので、恩恵を受けない人も多く、不公平感をもつかもしれない。</p> <p>・学校の統廃合に強く反対する人がいると聞いたので、そういった人と裁判になる可能性もある。反対する人の考えや思いをもっと想像した提案にしよう。</p>	<p>・個人の権利がぶつかる場合があること、憲法や法律に反する施策はできないことなどを確認する。</p> <p>☆個人の尊重と法の支配、法に基づく政治、公共性などに着目して、裁判所の果たしている役割について具体的な施策を題材にして多面的・多角的に考察している。【思・判・表】</p>
	<p>⑯ これまでの学習を踏まえて、身近な地域の課題を解決する方策について最終提案をしよう。（最終提案書）</p> <p>⑰</p>	<p>・行政職員からは、提案内容の変遷やその深まりについて評価してもらえるよう、事前に打ち合わせをする。</p> <p>・「一次提案書」に、「⑤二次提案との違い・修正点」の観点を加えて活用する。</p>

次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
第二次	<p>【最終的に予想される生徒の提案と気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> 税金を使って行う施策なので、できるだけ多くの人にとってメリットのあるものにしたい。バスを利用する人だけでなく、市内を移動する人の多くが恩恵を受けられるように、この施策でバスの売り上げが増えた場合、その分だけ市営の駐車場の使用料を引き下げることとした。バスに乗る人も自家用車を使う人も移動しやすい市になれば、交流人口が増えて、経済が活性化し、市の歳入増加につながると思った。市の財政状況のことも考えて提案することができたと思う。 	
第三次	<p>⑬ 自分の思いや願いを実現させるために、誰に投票したらよいだろうか。また、自分の思いや願いに一致する候補者がいないときは、どうしたらよいだろうか。</p> <p>⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい交通政策は魅力的だけれど、どこまで効果が上がるか不安もあるし、ほとんどバスも使わないので、少しでも政策に税金がかからなそうなA候補へ投票しよう。 小さな規模の学校を統合してくれれば、子供がたくさんと同級生と交流できるので、子育て世代としてB候補へ投票しよう。 私の立場からは、どの候補の公約もあまり魅力的ではなかったので、私が重要と考える他の論点を含めて、候補者に考えを質問してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢や性別、職業など様々な属性の人になりきって、その立場から考察し、判断させる。 仮の候補者の公約は、第二次での生徒の最終提案を活用する。 選挙管理委員会や明るい選挙推進協議会等の外部機関と連携し、模擬選挙の授業を実施する。 <p>☆対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義、公共性などに着目して、立候補者の政策を読み取るとともに、多面的・多角的に投票先を考察し、選択・判断している。【思・判・表】</p>

(3) 教師の手立てと生徒の考えとして予想されるポイント

生徒の学習に現実味や切実感を与えることをねらい、単元を通して、行政職員に関わってもらうように計画した。実践に当たっては、本単元の目的や学習の流れ、ゲストティーチャーとしての役割など、行政職員と事前の打合せを十分に行っておく。また、生徒の提案内容や学習成果についても適宜情報共有する。

<一次提案>



最初の提案においては、生徒の思いや願いは表現されるものの、それが行政の仕事として取り組まれるには、予算の希少性、受益者負担、法に基づく政治など、様々な点において不十分であることが予想される。そこで、行政職員からは、提案内容が実際に行政の施策として実現されるにはどのようなことが必要か、これらの点を中心に、助言してもらえるように打ち合わせておく。

<第二次提案>

一部の機関のみが予算や政策に関わると一部の人の利益のみが重視されるかもしれない。そうならないために、国会で議論したり、裁判所に訴えたりできることが大切だ。

1つの政策を決めて実行するだけでも、多くの機関が関わっていることがわかった。慎重に政策を進めなければならぬと思った。



提案の練り直し

多くの立場の代表である議員に賛成してもらえるように、様々な立場の人を考えた提案にしたい。高齢者にとってバスは大切な移動手段なので、利用者が少ないからと言って本数を減らすのではなく、ワゴン車を用いることで、本数を減らさずに、経費を抑えたい。その分を、学生がたくさん使えるようにしたい。

国会、内閣、裁判所の仕組みについて実際の政策を題材にして学習する。政策の具体的な内容や予算規模をどのようにつくったのか、国会でどのような議論がされたのか、不利益を受ける人はいないのかなどについて考えを深め、その考えをもとに提案を練り直していく。

<最終提案>

バスを利用するだけでなく、市内を移動する人の多くが恩恵を受けられるように、この施策でバスの売り上げが増えた場合、その分だけ市営の駐車場の使用料を引き下げることとした。バスに乗る人も自家用車を使う人も移動しやすい市になれば、交流人口が増えて、経済が活性化し、市の歳入増加につながると考えた。

<行政職員からのコメント・評価>

最初は、自分たちが生活しやすくなることを中心に考えていましたが、だんだんと視野が広がっていきました。税金で実施するからこそ、公共性が大切であることに気付いたのだと感じました。私たちにとっても行政サービスはどうあるべきか、改めて考えることにつながりました。

身近な地域の課題解決に向けた提案の最終発表会の場に行政職員に参加してもらおう。これまで同様、行政職員としての立場から提案の評価をしてもらうとともに、提案が修正、更新されてきた経緯を踏まえて、生徒の学びを評価してもらえるように打ち合わせをしておく。

<模擬投票>

学校のある市区町村の首長選挙の模擬投票を行う。選挙管理委員会や明るい選挙推進協議会などから協力を得ながら、架空の候補者やその政策内容については、第二次までに生徒が提案したものを活用する。

6. 実践するに当たっての留意点・配慮事項等

(1) 社会的事象の取扱い

・第二次において具体的な政策として取り上げる題材は、以下の点に配慮したものとする。

＊対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して捉えやすいこと

＊報道での扱いが多く、生徒の生活にとって身近に感じられること

＊施策に対して、様々な意見があり、多面的・多角的な捉えができること

生徒の実態や学校の地域性を踏まえて、より効果的なものを選定することが望ましい。

・現実の政党や政治的主張等を扱う場合は、一つの見方のみを扱うのではなく、複数の見方を扱うなど一つの考え方に偏ることのないようにすること。また、特に選挙期間中等は公職選挙法等の禁止規定に留意することも必要である。

(2) 小学校社会科、高等学校公民科との関連及び中学校社会科内での関連

- ・小学校社会科では第6学年で、国や地方公共団体の政治について、国民生活の安定と向上を図る大切な働きがあることを理解し、国民生活における政治の働きについて考え、表現する活動（「小学校学習指導要領 社会 第6学年2(1)ア(イ)及びイ(イ)」）をしている。既習事項として要点を確認するとともに、主体的に課題に取り組み、主権者として思考や解決策の提示につなげる。また、その際は小学校社会科で学習した、消防署や警察署、飲料水、電気、ガスといった社会資本の具体例も踏まえ、生徒の生活に関連した内容となるようにすることが大切である。
- ・高等学校公民科で新設された共通必修科目「公共」では、小・中学校社会科で習得した知識等を基盤に、「自立した主体」として、身に付けた資質・能力を活用して現実社会の諸課題を自ら見だし、話し合いなども行い考察、構想する学習を行う。また、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力を育むことも挙げられており、本単元での学習で得たことを高等学校での学習につなげる。
- ・中学校社会科公民的分野は地理的分野、歴史的分野の学習での学びを基礎として展開されるが、例えば、地理的分野の大項目C「日本の様々な地域」で学習する「地域調査の手法」と「地域の在り方」の内容を踏まえた展開をすることによって、より深い学びにつなげることができる。このように、分野間の関連性を意識した授業の展開を行うことによって、生徒の主体性や学びの深さを引き出す。

(3) 外部機関・外部人材との連携

- ・教員と生徒だけでなく、専門家や関係諸機関とも学習の目標や目的を共有し、連携して授業を展開すること。
- ・外部との連携に際しては、地域や生徒の実情・実態に応じて、連携することにより教育上効果があると見込まれる部分について行うこと。
- ・本事例の内容からは、議会、選挙管理委員会、財政部局等、地方公共団体各所と連携していくことが望まれる。多くの関係諸機関では学校との連携に協力的であるが、時間的、人力的な制約や、それぞれの市区町村によって連携の手順や連携方法に違いがあるため、各教育委員会等に相談の上、適切な連携を進める必要がある。

7. 資料・ワークシート等

(1) 授業で使用するワークシート・資料等

- ワークシート1 単元シート
- ワークシート2 一次提案書（グループで使用、二次提案書及び最終提案書としても活用）

(2) 参考となる Web ページ

- 総務省地方財政状況調査関係資料
https://www.soumu.go.jp/iken/jokyo_chousa_shiryo.html
- プラスチック資源循環戦略（環境省）
<http://www.env.go.jp/press/106866.html>
- GIGA スクール構想について（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm

民主政治と政治参加

氏名 ()

単元の問い 社会をよりよいものにするために、民主的な政治をどのように発展させていけばよいだろうか。

<単元のはじめ>

<単元のまとめ>

1 地方の政治は私たちの思いや願いが反映されている仕組みになっているだろうか。

キーワード【 】

2 現実社会の課題を解決するために、国会や内閣、裁判所はどのような働きをしているのだろうか。

キーワード【 】

3 私たちは、よりよい社会をつくるために、どのように政治にかかわることができるだろうか。また、代表者をどのように選ばばよいだろうか。

キーワード【 】

【実践編】 中学校 社会科

〇〇市をよりよくするために

提案書

グループ

① 現状の問題点（どのような問題があるのか？ それは、なぜ問題なのか？）

--

② 原因（なぜ、①のような問題が起こるのか）

--

③ 問題を解決するための提案（できるだけ具体的に）

--

④ 私たちの提案のセールスポイント

--

メンバー

〇〇さんからの助言内容・質問内容

次の提案に向けて取り組むべきこと・調べるべきこと（提案を作るまでに学んだこと・身に付けたこと）